

注目

今月の登場は田中治美さんです。

田中さんは、2月に行われた

「べいふあーむ笠岡（笠岡湾干拓地）」の視察から、この新しい大地の活性化について考えてくれました。

べいふあーむ笠岡を視察して

べいふあーむ笠岡

べいふあーむ笠岡は、国営干拓事業により、瀬戸内の温暖な気候に恵まれた農業の好適地として笠岡湾に誕生しました。



笠岡湾の海面1811haの内、港湾水域を除く1651haを堤防で閉め切り、周囲約

16km・農業用地1191ha

（笠岡諸島の真鍋島がそっくり入る大きさです）・工業用地460haを造成しました。

干拓地の用水を確保する導水事業も、水源の高梁川から延長24kmの水路によって、沿線市町の工業用水及び上水道用水も併せて取水できる多目的事業となりました。

べいふあーむ笠岡は、平成2年の「おかやま食と緑の博覧会」に先立ち、一般公募で付けられた笠岡湾干拓地の名称です。

乳牛飼養頭数

県内1〜4位独占

畜産用地には18軒の牧場があり、乳牛は2167頭・肉

牛は3035頭と県内でも有数の産地となっています。（平成16年度末現在）特に、搾乳規模（頭数）については、県内一位から四位までの牧場がここ、べいふあーむ笠岡にあるのです。

山本氏が経営している「希望園」牧場で搾乳を見せていただきました。一周約30mのターンテーブルに、牛がおりなしく順序良く自分で歩いて乗り、搾乳が済めば自分で歩いて帰って行きます。一日三回の搾乳をされていて、その光景は実に感動的でした。



感動的なバラ・いちご

続いて、海外にその名を馳せている「藤原ばら園」へ。

バラの大輪は、大人の拳大くらいにもなる品種が！年間を通しての出荷は見事という言葉しか発し得なかったです。

親子で茄子といちごの栽培をしている「岡田農園」。露地なすの栽培で、害虫の駆除に天敵を使った「ソルゴー囲い込み栽培」は、ここ岡田農園が発祥の地だそうです。

いちご栽培は大人の胸の高さで作業がしやすくしており、立派な育ちと赤い色付きで、最高のできばえです。



統一ブランド化に向け 自給率の向上を

「べいふあーむ笠岡」という愛称を生かした統一ブランドの確立に向け、行政と民間

が協働で努力し、しっかりとPRしてほしいです。その土俵づくりに「陸援隊」は邁進されますことを提言いたしたいです。

このブランド化に向けて、これからのべいふあーむ笠岡を考えると、畑作農家・畜産農家の連携を強めていく努力が必要だと思っています。

現在、粗飼料基地では、連作障害を避けるため、デントコーンなど数種類の飼料用作物を生産し、肥料は共同堆肥舎に持ち込まれたものを利用しています。

この耕畜連携による環境にやさしい循環型農業をさらに推進し、べいふあーむ笠岡での自給飼料の生産や、畑作農家への堆肥供給など、飼料自給率の向上を図ることで、信用信頼のある農産物の生産が期待されます。

それも、行政と農家の協働・手の組み方でしょうか！

このページのご意見・ご感想をお待ちしています。また、「市政についての質問・提言」などがあれば併せてどうぞ。

お便り…〒七四一八六〇一 笠岡市中央町一

企画政策課モニター係

☎082110 FAX082228